

※特別児童扶養手当及び障害児福祉手当については、各障害のいずれか１つに該当

障 害 区 分		特 別 児 童 扶 養 手 当		障 害 児 福 祉 手 当
		１級（重度障害）	２級（中度障害）	最重度障害
視 力 障 害		以下の①～④の視覚障がい （視力は、万国式試視力表又はそれと同一の原理に基づく試視力表により測定する。屈折異常のあるものについては、矯正視力により認定する。）	以下の①～④の視覚障がい （視力は、万国式試視力表又はそれと同一の原理に基づく試視力表により測定する。屈折異常のあるものについては、矯正視力により認定する。）	以下の①～③の視覚障がい （視力は、万国式試視力表又はそれと同一の原理に基づく試視力表により測定する。屈折異常のあるものについては、矯正視力により認定する。）
		①両眼の視力がそれぞれ0. 03以下のもの	①両眼の視力がそれぞれ0. 07以下のもの	①両眼の視力がそれぞれ0. 02以下のもの
		②一眼の視力が0. 04、他眼の視力が手動弁以下のもの	②１眼の視力が0. 08、他眼の視力が手動弁以下のもの	②両眼の視力がそれぞれ0. 03以下かつ両眼による視野２分の１欠損
		③ゴールドマン型視野計による測定の結果、両眼のⅠ／４視標による周辺視野角度の和がそれぞれ80度以下かつⅠ／２視標による両眼中心視野角度が28度以下のもの	③ゴールドマン型視野計による測定の結果、両眼のⅠ／４視標による周辺視野角度の和がそれぞれ80度以下かつⅠ／２視標による両眼中心視野角度が56度以下のもの	③一眼の視力が0. 04、他眼の視力が手動弁以下かつ両眼による視野２分の１欠損
		④自動視野計による測定の結果、両眼開放視認点数が70点以下かつ両眼中心視野視認点数が20点以下のもの	④自動視野計による測定の結果、両眼開放視認点数が70点以下かつ両眼中心視野視認点数が40点以下のもの	
聴 力 障 害		両耳の聴力レベルが１００デシベル以上のもの	両耳の聴力レベルが９０デシベル以上のもの	両耳の聴力が補聴器を用いても音声を識別することができないもの 両耳聴力レベル１００デシベル以上
平 衡 機 能 障 害			平衡機能に著しい障害を有するもの	
そ しゃ く 機 能 障 害			そしゃく機能を欠くもの	
音 声 ・ 言 語 機 能 障 害			音声又は言語機能に著しい障害を有するもの	
肢 体 不 自 由	上 肢	両上肢の機能に著しい障害を有するもの 両上肢の全ての指を欠くもの 両上肢の全ての指の機能に著しい障害を有するもの	両上肢のおや指及びひとさし指又は中指を欠くもの 両上肢のおや指及びひとさし指又は中指の機能に著しい障害を有するもの 一上肢の機能に著しい障害を有するもの 一上肢の全ての指を欠くもの 一上肢の全ての指の機能に著しい障害を有するもの	両上肢の機能に著しい障害を有するもの 両上肢の全ての指を欠くもの
	下 肢	両下肢の機能に著しい障害を有するもの 両下肢を足関節以上で欠くもの	両下肢の全ての指を欠くもの 一下肢の機能に著しい障害を有するもの 一下肢を足関節以上で欠くもの	両下肢の用を全く廃したもの 両大腿を２分の１以上失ったもの
	体 幹	体幹の機能に座っていることができない程度又は立ち上がることができない程度の障害を有するもの	体幹の機能に歩くことができない程度の障害を有するもの	体幹の機能に座っていることが出来ない程度の障害を有するもの
	肢 体 機 能	身体の機能の障害又は長期にわたる安静を必要とする病状があり、その状態が前各号と同程度以上と認められるものであって、日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの（※１）	身体の機能の障害又は長期にわたる安静を必要とする病状が前各号と同程度以上と認められる状態であって、日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの	
そ の 他		上記のほか、内部障害（心臓、肝臓等の臓器、呼吸器、血液疾患等）、精神の障害であって、前各号と同程度以上の場合	上記のほか、内部障害（心臓、肝臓等の臓器、呼吸器、血液疾患等）、精神の障害であって、前各号と同程度以上の場合	上記のほか、内部障害（心臓、肝臓等の臓器、呼吸器、血液疾患等）、精神の障害であって、前各号と同程度以上の場合